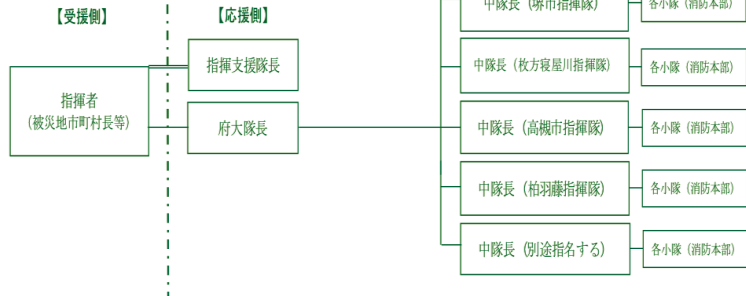


(3) 災害現場(サイト)別



中隊長優先順位

| 優先順位 | 1     | 2             | 3       | 4                | 5      |
|------|-------|---------------|---------|------------------|--------|
| 中隊長  | 堺市消防局 | 枚方寝屋川消防組合消防本部 | 高槻市消防本部 | 柏原羽曳野藤井寺消防組合消防本部 | 別途指名する |

- ※ 災害現場(サイト)別中隊長は、災害現場が複数ある場合に編成するものとする。
- ※ 災害現場(サイト)別中隊長は、上記優先順位に基づき指揮隊等を府大隊長が指名する。
- ※ 災害現場(サイト)別中隊長は、中隊長に属する小隊について管理し、その活動を指揮することを任務とする。

特に覚えておいてもらいたいのは、①ブロック別と②災害現場(サイト)別の中隊長編成についてです。  
「ブロック別中隊長」は、訓練センターに集結した際や、被災地までの進出(移動)中、又は宿営場所での連絡時によく使われる編成です。多くの部隊が集まったり移動したりする際にブロック毎の中隊長とすることで、指揮体制や連絡体制を明確化しています。ここで気になるのは、大阪市消防局ほどのブロックに属しているのか?ということですが、昔は中ブロックに所属していましたが、現在ほどのブロックにも所属しておらず、大阪市消防局は単体で存在しています。(そもそも単体でも所帯が大きいですw)。

また、被災地の災害状況によっては、いくつかの災害現場(サイト)に分かれる場合があります。その時は大阪府大隊長の指示により小隊が割り振られますが、それぞれに中隊長が充てられ、災害現場(サイト)別中隊長が編成されます。自隊の所属する部隊と中隊長をしっかり把握し、指揮命令系統を意識して活動に当たってください。

〜おわりに〜

緊急消防援助隊に関しては、冒頭でお伝えしたとおり、全国的に派遣が増え、毎年毎年新しい計画や部隊が創設されている状況です。

各消防署の皆さんは、年に1度派遣されるかどうかかわからないという状況の中で、自分が派遣される可能性は低いと感じているかも知れません。さらには、毎年変更される計画等の内容をすべて把握することは非常に難しくなっています。

しかし、日本という国を見たとき、西日本の要となる大阪府にかかる期待というのは大きなものがあり、大阪府の代表消防機関である大阪市消防局は、大阪府大隊の中心として引っ張っていく存在であることが求められています。

大規模災害で被害に遭い助けを待っている人のため、国民の生命、身体、財産を守るため、大阪の代表として、大阪市消防局の名に恥じぬよう日々研鑽を積んでいきましょう。

最後に、「平成30年7月豪雨」の活動記録に載せた写真を一枚掲載させていただきたいと思えます。本投稿が、緊急消防援助隊の仕組みを少しでも知っていただくきっかけになれば幸いです。



7月12日 広島県安芸郡熊野町川角での救出活動

未だに見えられていない家族に会うことを待ちにしている方々のため「被災者の気持ちに寄り添って救助活動を行おう」と全員で意思統一を図った。  
派遣されてから3日目、活動終了予定の5分前に「要救助者発見!」の声。「もう1名います!」と名とも子供です!」  
被災から6日が経過しており、救助隊の呼びかけには応じなかった。2人は互いの間に押し潰れ、足が幼い弟をかばうかのよりに折り重なった状態で発見された。  
救出活動中、エンジンカッターやチェーンソーを使う場面があったが、2人をこれ以上傷つけないよう注意し、発見から約2時間後に救出。  
救出活動を見守っていたお父さんは、兄弟が救出された瞬間に泣き崩れ、消防隊に深くお辞儀し、涙ながらにお礼を言った。  
2人はすでに心臓停止状態で、警察に引き継いだ。  
全員がヘルメットを脱ぎ、合掌で見送った。

我々にできることは、被災者の苦しみと悲しみを少しでも和らげることができるよう、全力で活動することであり、それが消防の真の使命である。